

成人期扁平足

山田俊介

横浜市立大学附属病院 整形外科 助教

Point

- ▶ 成人期扁平足の原因としては後脛骨筋腱機能不全症が重要
- ▶ 扁平足はアーチ構造が低下し、疼痛や歩行障害をきたす疾患である
- ▶ 保存療法で改善が得られない場合は病期分類に応じた手術療法を検討する必要がある

はじめに

扁平足はアーチが低下した状態を示し、一般に小児期、思春期、成人期に分類されます。成人期扁平足 (adult acquired flatfoot deformity ; AAFD) は思春期扁平足からの移行だけでなく、肥満や加齢による筋力低下や腱・靭帯の脆弱化などによって、成人期から病状が進行する場合があります。

成人期扁平足の病態

成人期扁平足の要因としては、後脛骨筋腱機能不全症、関節リウマチや変形を含めた関節症、骨・関節の外傷、神経病性関節症、神経麻痺、足部腫瘍が挙げられます。後脛骨筋腱機能不全症は要因のなかでも頻度が高く、病態の中心として注目されています。足のアーチ構造は内側縦アーチ、外

ります¹⁾。

成人期扁平足の原因としては後脛骨筋腱機能不全症 (posterior tibial tendon dysfunction ; PTTD) が最も注目されており、本章ではその特徴と治療法に関して説明していきます。

側縦アーチ、横アーチの3つのアーチから構成され、それらは腱と靭帯組織により保持されています(図1)。とくに後脛骨筋腱は内側縦アーチを持ち上げる機能をしており、ばね靭帯 (spring ligament)、三角靭帯(図2)とともにアーチを維持するのに重要です。

後脛骨筋腱は脛骨内果下端で走行を変えるため機械的刺激を受けやすく、血流の乏しい部分では修復機序が働きにくいとされます²⁾。そのため、微細な損傷が重なると変性が進み、断裂に至ります。後脛骨筋腱の機能不全が進行するとばね靭帯が徐々に弛緩し、前足部は外転、後足部は外反し、縦アーチが消失することとなります(図3)。

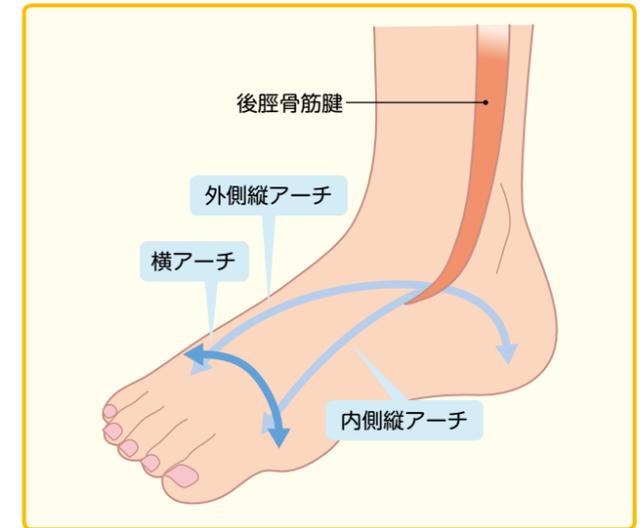


図1 足のアーチ構造

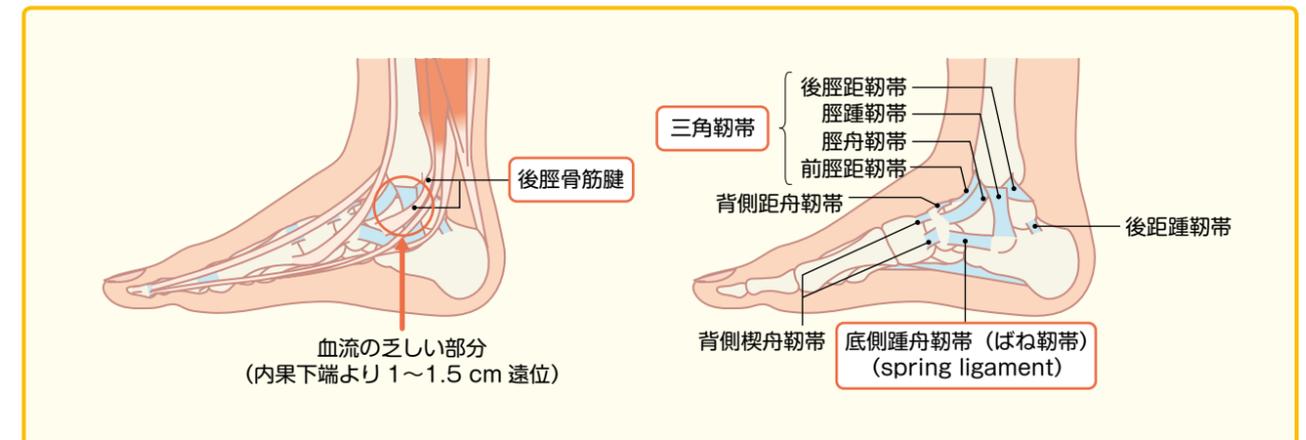


図2 内側縦アーチの支持機構 (右足, 内側)

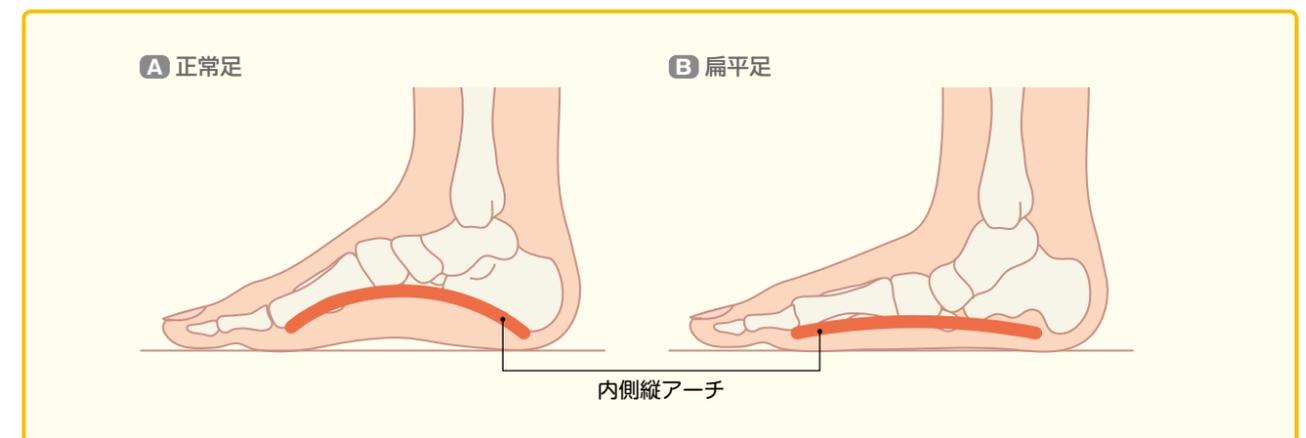


図3 正常足と扁平足の内側縦アーチ (右足)